元の理～この世の摂理～

2020.12.7 ver. -作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け又助けられ、遊び心の中に喜び勇む道,「陽気遊山」にある。この世のあらゆる全ては、陽気遊山の為に用意されていて、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

※「理」≒事実,要因

どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰での働き」主体(陽3:陰7)のものと「陽での働き」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

物事の起点となり、ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。求めず、冷静で、広大な海の心。目の前ではなく、遠い先を見るから落ち着く。物事の根っこを綺麗にしていく心。見えない陰で尽くす楽しみ。"目は心の窓" 眼は心根の現れ。

見聞き、経験する事象,現象は、時代や人で変わってくる。大事なことはその事象,現象が、どういう理で現れたのか、そして"自分は"どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることである。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

物事の整理が付かない状態は、泥海のように混沌としていて面白くない。この世の元始まりも同様に混沌としていた。この図表を見て、この世が形成された一連の流れを思案し、どういう理合いを自らの心に治めていくかが大事である。これからは理合いを理解し、すっきりと心を澄ませることで、だんだんと陽気な道が開けてくる。

自ら勇んで通る道はやがて逞しい往還道へと続く。

くにとこたち不足時(をもたり/母 強い時):
熱中症、火事、火傷、猛暑、熱帯夜、火山噴火、砂漠化、高血圧、不安症、ストレス過多、過緊張、不眠症、眼の身上 etc.

お蔭様の理。

心定めが全ての起点。

本心。

月 天 父

陰での働き

左親指

無意識領域。

先の未来を楽しみ、落ち着いて物事の根っこを澄み潤わせる、陰の心。

朝起き 陰徳の心

水のように冷静になって思い切り、物事が新たな楽しみへ転じ変わる。

出直し(死)とは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

天とは、普段見えない陰の働き。心もまた目に見えない陰の働き。天の理とは、見えない陰の働きの理のことであり、心の理のことである。

①くにとこたち

左の役割 陽3: 陰7

体内: 眼、潤い、心根、感覚神経、睡眠、副交感神経、体の70%水分
世界: 水、雨、海、根、夜、地下水、地球の70%水分、宇宙の70%暗黒エネルギー

自分をまとう欲(泥)を捨ていんねんを切り替える。

月 男

陰での働き

陰で周りを引き立て支え、大事な所で俊敏につっぱる心

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつっぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。 頭低く、影で下の方から支える土台の働き。

ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

⑥月よみ

陽3: 陰7

体内: 骨、男一の道具
世界: つっぱり支える働き、立てる働き、柱、立木、月、月の引力、潮の満ち引き、月経を促す

天

陰での働き

仕切る働き。瞼を閉じて冷静に思い切り、切を付けて進み出す心

⑩たいしょく天

陽3: 陰7

体内: 出産時に親子の胎縁(臍の緒)を切り、出直し時に息を引き取る働き。散髪、爪切り
世界: 切ること一切、細胞分裂、食物の収穫

十分に満ちた理

過剰(かしこね 不足):
物事が処理しきれず、その状況を断ち切る状態。瞼が勝手に下がってくる状態。

不足(かしこね 過剰):
物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先へ進めない状態。不安や心配などで、瞼を閉じ切れない状態。割り切れず思い切れず、踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、保守的

北

立春

一月

北東

春分

日の出

※太陰太陽暦

夜

北西

冬至

④いざなみ

婦

女,苗代(環境)の働き
素直に受け入れ育む心
仕合わせ

陽気づくめの心

③いざなぎ

夫

男,種(元)の働き
まっすぐな堪能の心
みにつく

西

立冬

十四月

立夏

東

日の入

秋分

南西

夏至

南東

昼

立秋

十三月

南

陽

陰での働き

苦がなくなる。

時旬を見定め、陰の働きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心

⑨をふとのべ

陽3: 陰7

体内: 出産時に子を引き出す働き
身長,爪,髪の成長、思い出す,発明,閃き
世界: 引き出し一切、教育、引力、動植物の成長

過剰(くもよみ 不足):
不要なものや引き出さなくていいものまで引き出してしまう状態。
お節介や勇み足、悪い方への誘引

引き出し 3割の加減

不足(くもよみ 過剰):
短所など表面的な所が目について、隠れた長所や本質に気付けず引き出せない状態。他人に対してなら見下す心(≒優越感),自分に対してなら過度にへりくだる心(≒劣等感)

陽

陽での働き

必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して迎え入れ、残留物は流す循環・順応の心

⑦くもよみ

陽7: 陰3

体内: 嗅覚、味覚、解毒、咀嚼、飲み込み、消化、吸収、排泄。
理解、記憶、(不要な情報を)忘れる
世界: 水気循環, 溶解(分解,酵素)→蒸発(吸収,分離)→気体→雲(凝固,老廃物)→降雨,降雪(排泄)

過剰(をふとのべ 不足):
物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼せず、味わわず、消化せず、吸収できず。物忘れの傾向。

腹七分目

不足(をふとのべ 過剰):
物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食,拒食or便秘状態。食わず嫌い状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰＆不足: 物事が身に付かず,朝を迎えられない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

お金やモノの循環。

柔軟に流れに合わせて。 苦(≒雲)のない循環はない。

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。
動植物の成長は、日光によって引き出される。

地

流れを生み、向きを変える働き。言って勇ませ、聞いて楽しむ心

⑧かしこね

陽7: 陰3

陽での働き

体内: 息,呼吸、鼻で吸い(加温,加湿清浄) 口で吐く(冷暖房,加湿除湿)
声、言葉、耳、聴覚
世界: 風,音,空気,大気

聞き上手が話し上手に。 勇み心を八方へ。

過剰(たいしょく天 不足):
受ける側にとって、風がしつこい状態。暴風・台風状態。両者の声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥(声)をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

不足(たいしょく天 過剰):
受ける側にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、息苦しい、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声(耳障り)の状態。陰口、愚痴、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷

日 女

物事をゆっくり柔軟に受け止め子ども心でぎゅっと繋ぐ心

⑤くにさづち

陽7: 陰3

陽での働き

体内: 皮膚、筋原繊維、血管系、リンパ管系、女一の道具
世界: 柔軟な繋ぎの働き、縁、出会い

温かい心が消化・吸収・排泄を促し、物事の循環を生み出す。

人を助ける処に、自分が助かる。
相手とともに、皆で助かっていく道。

手の働き。繋いでぎゅっと握る。あれこれ考えず阿呆になる。物事の繋がりを生む理。

見聞き、経験する出来事を普く喜び、つなげる心。不平不満は繋がらない。見聞き,経験する中に自らのいんねん、歩むべき道が見える為、喜べる。喜べるから、新しい繋がりが生まれる。

日 地 母

陰の働きに気付いて有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心

②をもたり

陽7: 陰3

右の役割

右親指

体内: 体温、活力、感情、交換神経、運動神経
世界: 火、太陽、熱、光、昼

意識領域。

感謝を言動へ、ひのきしん。

陽での働き

優しく心地のいい風、言葉が生まれる。

言葉は命
運命を変える

物事が当たり前に思えてしまう状態

をもたり不足時
(くにとこたち 強い時):
冷え性、悪寒、低血圧、貧血、極寒、洪水、津波etc.

陰の働きを有難いと思えた理。そこから湧き上がるぬくみの心。温かい優しさで包み、周りを明るく喜ばせる心。見える働き。大きな連鎖を生み、物事が始まり動き出す原動力となる働き。

心のほこり(※毎日払い,人にほこりを積まさぬよう)
おしい、ほしい、かわい、よく、こうまん
にくい、うらみ、はらだち、嘘,追従(心言動の一致)

挨拶は風の働き。
自ら吹かそう。

声は肥。相手の状態に合わせて柔軟にかける言葉は変えよう。

ヒント!

【二つ一つの理 と その均衡】
対になる働きは、まるでシーソーのように連動して作用している。
①くにとこたち: ②をもたり
③いざなぎ: ④いざなみ
⑤くにさづち: ⑥月よみ
⑦くもよみ: ⑨をふとのべ
⑧かしこね: ⑩たいしょく天
隣り合う働きも夫々似ており連動している。なので、この図は3Dで立体視することも可能である。

PDF:https://karakosha.net/youkiyusan